

2023 年 1 月

英国のレディミール市場 2022 年 10 月視察レポート

Foodbiz-net.com 道畑富美

英国の人口は約 6,700 万人。パンデミックにより自然増加は少ないものの、移民等により毎年 0.3~0.5%社会的増加している。ブレクジット以来、はじめてイギリスに入国するが、入国審査はさほど厳しい雰囲気もなく、移民による若い世代の労働力や多様性によるメリットをよく理解していることであろう。

英国食品小売市場は、IGD (The Institute of Grocery Distribution) によると、2,413 億 £で、2027 年までに、11.3%の成長をすると予測している。小売市場においては、後述のようにインフレの影響大きく、消費者の節約志向は強い。したがって、ディスカウント業態チャネルの成長が著しい。と同時に、利便性志向も高く、オンライン購入、また実店舗においてもコンビニエンスなサービスが求められている。

(1) レディミール市場

英国のチルドレディミールは、1960 年代後半の米国の TV ディナーの導入に始まり、その後、女性の社会進出や離婚率の増加などを背景に成長したが、品質としては需要うまく捉えられなかった。そこで 1979 年に M&S が発売したチルドレディミールが、消費者の鮮度へのニーズに合致し、電子レンジの普及と相まって普及していく。2012 年には、英国のレディミール (原文では prepared meal) 市場の 57%をチルドレディミールが占めていた。

(以上、BBC 記事)

独断と私見でもって、周辺の国々を見ると、北欧は冷凍レディミールが主流、ベルギー、オランダ、ドイツあたりまでは、チルドレディミールのほうが冷凍よりも比重が高い。またイタリア、ポルトガル、スペインあたりまで南下していくと、レディミールより素材主流型である。なぜ、イギリス、特に都市部でこれほどレディミールが発達したのか興味深いところではあるが、家族構成や住宅 (キッチン) 事情に加え、ビッグ 4 と言われる大手食品小売業のプレゼンスが高いことが背景にあると推測される。さらに、多様な人種が生活する都市部で、様々な食文化がレディミールに取り入れられていることも興味深い。

その市場規模であるが、英国 CFA (Chilled Food Association) によると、チルドフードにおいては 145 億 £、CFA に定義される Chilled Food は、5°C以下で賞味期限は、1 日から 10 日としており、これにはパックされた食肉加工品や水産物、カット野菜、ソースも含まれる。そのなかで Chilled Ready Meal のカテゴリーは、17.8 億 £の市場である。2019 年に同協会のカテゴリー分類が変わっているため、経年変化は把握できないが、2020 年は、前年比 7.4%増、2021 年は 21.9%増と伸びている。他には、サラダ、味付けされた魚、サン

ドイッチ（ラップロールを含む）など、これらは、チルドレディミールにはカテゴライズされていないが、の伸びも大きい。

一方、冷凍レディミールについては、**British Frozen Food Federation**によると、アイスクリームまで含めて冷凍食品市場は、約 90 億£で、小売市場においては、パンデミックにより買い物頻度が低下したことで冷凍食品が 2019 年から 2021 年比で 20.1%伸びたとしている。ちなみにチルドフードについては、5.9%の伸びにとどまっている。とはいえ、冷凍食品の売り場は、以前ほど変わりなく、冷凍素材（ポテト、フライドフィッシュ）やピザなどが主流、冷凍レディミール（一食分のセット的なもの）は、冷凍食品専門の ICELAND や COOK 以外では、種類が少ない。

（2）レディミールカテゴリーの変化と売り方

レディミールの元祖 M&S は、さすがに種類が豊富である。スライスした食肉加工品なども含めると、6つの通路に以下のカテゴリーが並んでいる。2016 年視察時よりも、更に細分化されて、商品数も増えており、特に、チキンと魚の棚が広がっている。

2022 年 10 月 M&S Angel 店

1	Chicken	Fish、Breaded Fish（パン粉付したもの） Smoked Salmon、 Fish ready to Eat（ボイル海老など）
2	Sliced Meat Houmous & Dips、Olives	Quiche Roast Poultry
3	Soup、 Count on us（我々におまかせ下さい）	Vegetarian、 Balanced for you
4	Pizza、 Chinese	Italian、Pasta Indian
5	Traditional Meals Pies & Lattices（格子状のパイ） Gastro Pub	Meal for one（一人分用のミール） Prepared Potato Prepared Vegetables
6	Dessert、Yogurt	Cream Cakes、Cream

2016 年同店のレディミールカテゴリー

Gastro、Traditional Meals、Pie
Soup、Sauce
Italian、Pasta、Pizza
Salmon、Coated Fish、Fish&Chips
Healthy Meal(HALAL 含む)、Kids Meal
Chinese、Indian、Vegetarian、
Yogurt、Dessert、Hot Dessert

後述するように、インフレの影響がスーパーマーケットの店頭にも色濃く出ている。特にレディミールは、各社、Meal Deal と称するセット販売により、食卓提案をしつつ価格を全面に出して販売している。M&S や Waitrose は、2 人分で 12£ (160 円換算で、約 2 千円) となると、日本人的には少しも安くはないが、ロンドンで外食することを思えば、まあそれ相応の価格であろう。(プレタマンジェのテイクアウトサンドイッチが 800 円くらい)



M&S エンドで 7£ の Meal Deal は、STIR FRY (フライパンで炒めもの) はあちこちで見られた。カット野菜と麺、肉か海老などから好みのものをピックアップする。焼きそばセット！

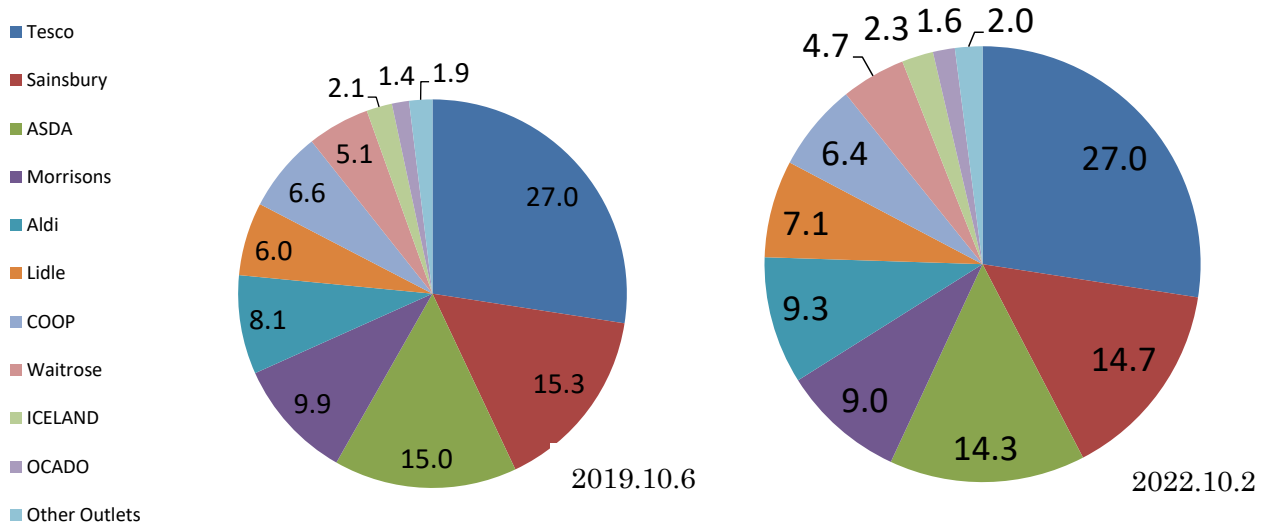


ASDA では、焼きそばセットが、肉抜き (麺と野菜、ソース) で 2.5£。最近進出の Amazon Fresh は、ドリンクとラップロール、スナックで 3.5£。

(3) インフレ・節約志向と食品小売業

ビッグ4といわれた **TESCO**、**Sainsbury**、**ASDA**、**Morrisons** の4社が、食品小売市場の7割以上のシェアを長らく保ってきた。この秋、ドイツのディスカウンター **Aldi** が4位にランクイン。確かに、訪店すると、**Morrisons** は、今ひとつ元気なし。一方、ロンドン市内 **Kilburn** の **Aldi Local** は、都心立地で食品に特化した、素晴らしい店。顧客がカートいっぱい買い物をし、買い上げ点数も多い印象。日曜日、17時の閉店前でレジには長い列ができていた。さらに **Aldi** に続く、**Lidl**。この独ディスカウンター2社がますますシェアを伸ばしていきそうな勢い。**Lidl** は、2025年までに強気の出店計画を発表している。消費者は、価格を見ながらあちこち買い回っている様子で、日曜日、テムズ川南の **Mitcham** 地区では、**Lidl** と **ASDA** が隣接するところでは、両店の間を顧客が行ったり来たりしている。また、ロンドン市の西北、再開発が活発に行われている **Wembley** 地区の **Costco** では、日曜日にもかかわらず、顧客のカートがいっぱいになってない。売れているのはトイレットペーパーとミネラルウォーター。消費者の財布の紐はがっちり絞められている。

英国小売業のシェア推移 (2019 to 2022)



Kater 社 Data より作成 (4)

参考資料

(1) IGD の予測

<https://www.esmmagazine.com/retail/igd-uk-grocery-market-to-grow-11-3-largely-drive-by-inflation-176710>

(2) CFA Chilled Food Association <https://www.chilledfood.org/our-market/>

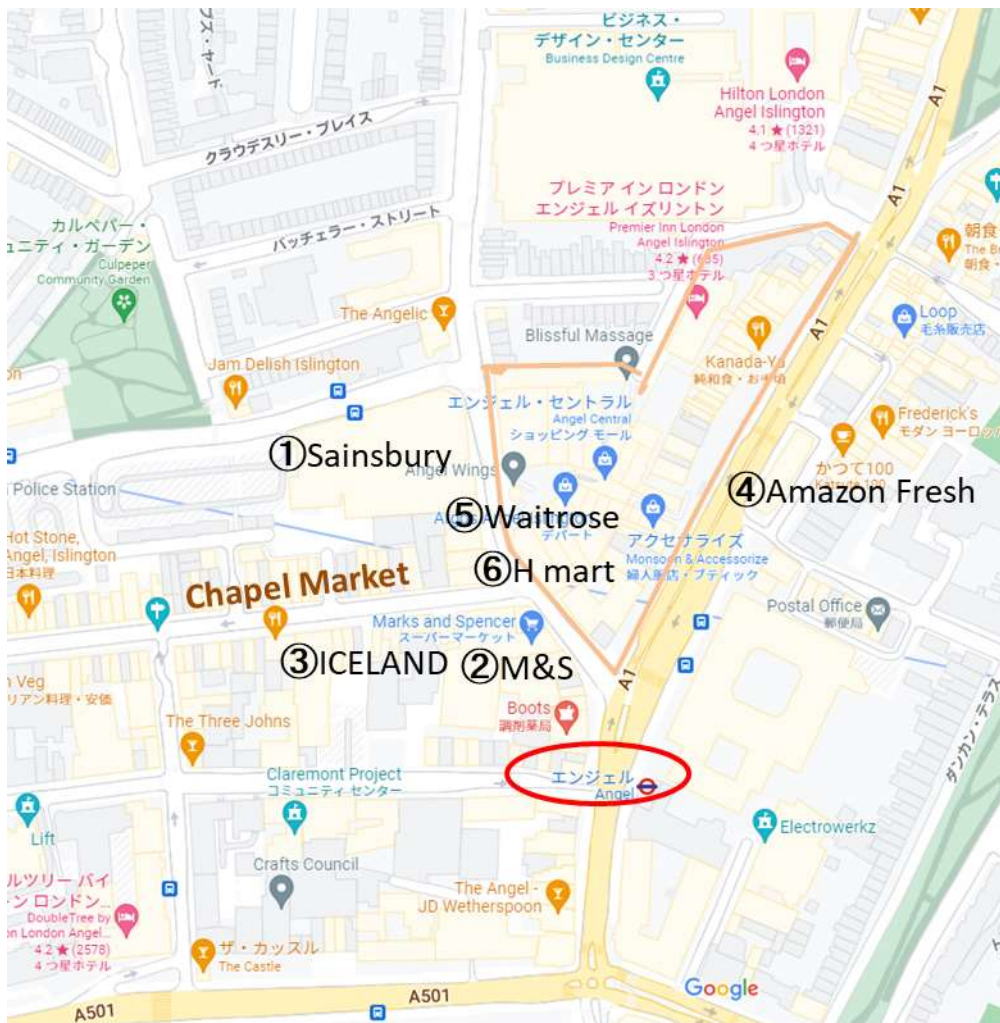
(3) British Frozen Food Federation <https://bfff.co.uk/the-frozen-food-report-2022/>

(4) Kanter <https://www.kantarworldpanel.com>

ロンドン市内のスーパーマーケットは、日本の都市部のコンビニのような存在で、レディミールの構成比も高い。ここでは、ロンドンの中心にある Angel 地区と Mitcham 地区などを紹介する。今後、皆様の視察の一助になれば幸いである。

(Angel 地区) https://en.wikipedia.org/wiki/Angel,_London

ロンドン中心地 Charing Cross より約 2 マイル。Islington 区にある町で、東京で言えば、吉祥寺のようなところ。駅前にショッピングモール、劇場もいくつかあり、若い人で活気ある街。また、チャペルマーケットという露天商が並ぶ通りも、店主も買い物客も、トルコ、インド、中東などエスニックな雰囲気が漂っている。Sainsbury、M&S、Waitrose の激戦区。さらに、チャペルマーケット通りには、冷凍食品専門スーパー ICELAND があ。2022 年 Amazon Fresh がオープンし、また Hmart (韓国系食料品店) もできていてインスタント麺など売られている様子である。道畑が、定期的に視察しているところである。



1. Sainsbury

1869年食料品店として創業。食料品スーパーマーケット他、コンビニエンスストア、銀行、またアパレルブランド Tu や家電・おもちゃなどのブランド Agros を持つ。店舗数においては、食品スーパー600店以上、コンビニエンス 800店以上を運営し、ECにおいては、Argos のオンライン売上は 80%以上となる。

売上規模は、298億95万£、税引前利益7億3千万£ 前年より数%成長しているものの、市場環境により厳しい状況が続いている。

視察当時、店頭では、価格訴求をする POP が目立ち、758品目において最低8週間の価格を維持する Price Lock（価格凍結）やディスカウンターAldi を意識して、Aldi Price Match などのキャンペーンを実施している。ディスカウンターでもない、しかも業界3位の Sainsbury がディスカウンターと張り合うなど、土俵が違うように思うが、それだけスーパーマーケットの競争が熾烈になっているということの裏付けであろう。

2. Marks & Spencer

M&S は、1884年創業の百貨店なども運営する総合小売業。M&S の PB ブランドで衣料品や靴・雑貨も展開している。英国国内に約300店、また世界30カ国にフランチャイズ店を持つ。グループの売上は109億£、内、食料品売上が66億£（税引前利益2億7780万£）と半分以上を占めている。先述のようにチルドレディミールを最初に売り出した店でもある。駅や空港にコンビニスタイルの店舗が必ずあり、若年客や女性客で賑わっている。

百貨店母体とするため、アッパーなレベルと扱っており、食材の産地との連携、栄養強化パンや英国産の畜産物などにこだわりをもっている。ECのOCADOとも提携しており、2020/2019比でデリバリー売上は1割以上伸び、他の小売業のなかで優位な地位にあると同社アニュアルレポートにコメントされている。

3. Iceland

1970年創業の格安冷凍食品専門スーパーマーケット。英国内に900以上の店舗を構え、

4. Amazon Fresh

2021年3月英国内に Amazon Fresh が開店、2025年までに260店を出店する計画を出していたところが、19店目を2022年6月にオープンした後、2022年9月に出店計画の一時中断を発表している。この Angel 店は、2021.12月に開業した6店目となる店である。かなりの低価格で提供しているが、インフレが進むなか、思うように集客ができなかったことも要因かと思われる。この Angel 店では、お昼時にもかかわらず、ほぼ客がおらず、利便性より低価格、買い慣れた店へと流れているように思われる。

4. Amazon Fresh

2021年3月英国内に Amazon Fresh が開店、2025年までに260店を出店する計画を出していたところが、19店目を2022年6月にオープンした後、2022年9月に出店計画の一時中断を発表している。この Angel 店は、2021.12月に開業した6店目となる店である。かなりの低価格で提供しているが、インフレが進むなか、思うように集客ができなかったことも要因かと思われる。この Angel 店では、お昼時にもかかわらず、ほぼ客がおらず、利便性より低価格、買い慣れた店へと流れているように思われる。

5. Waitrose

1904年食料品店からスタートした Waitrose は331店を構え、食品小売業においては、8位のポジションにある。売上は、75.4億£、営業利益(operating profit)10億1,960万£1937年にはジョン・ルイス(現在、百貨店なども運営する小売グループで、employee-owned 従業員がオーナーシップを持つ企業としても有名)とパートナーシップを結び、現在に至る。1950年代早い段階からセルフサービスを導入した企業でもある。また、中東にも出店しており、Waitrose PBブランドは、58カ国に輸出されている。この Angel の店は、小型店で生鮮類も少なくコンビニ的な利用が多い。

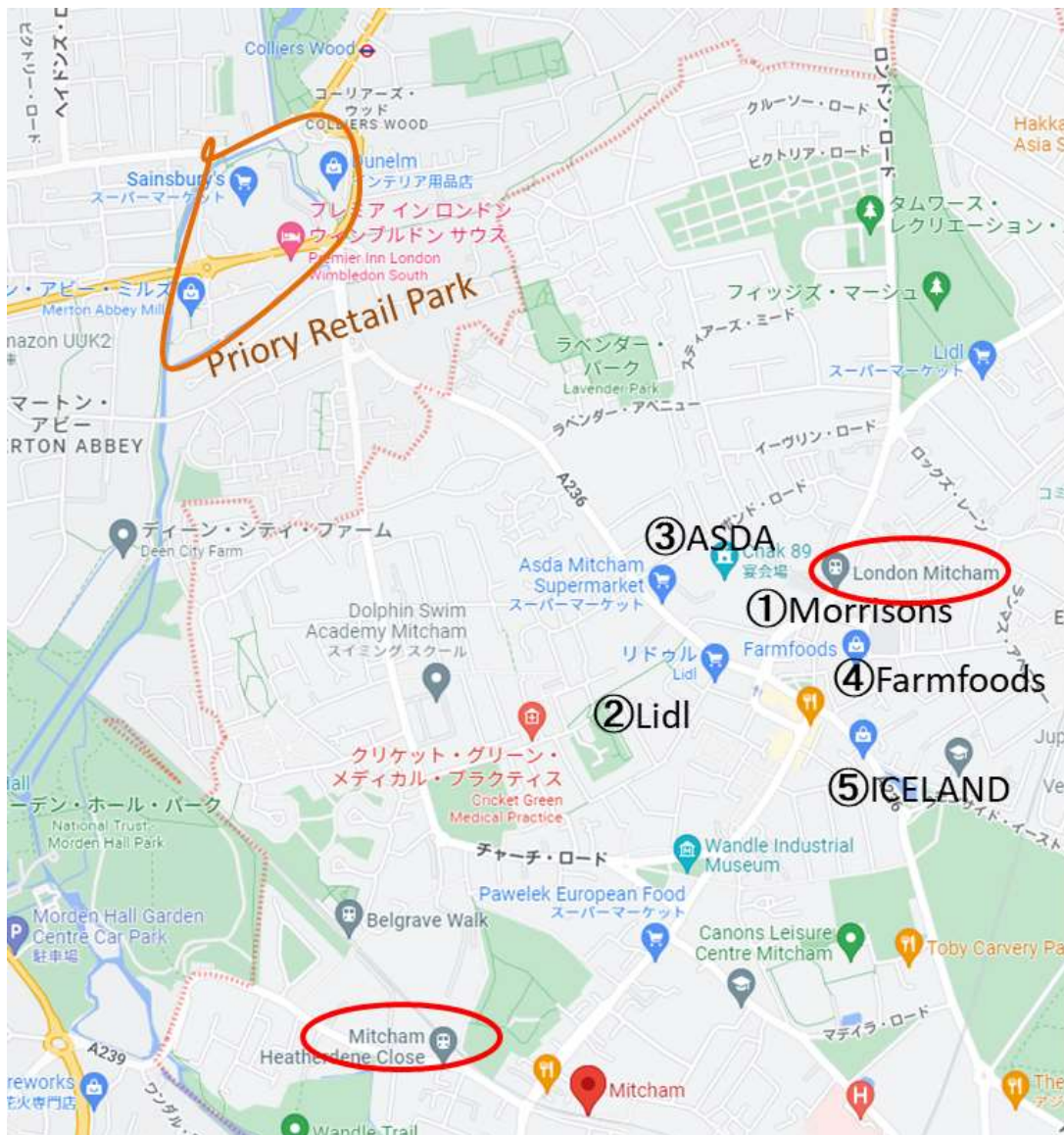
6. Hmart OSEYO

H-mart は、韓国系スーパーで、米国西海岸、東海岸とテキサスに75店舗を展開する。ニューヨーク郊外の店を何度か視察したことがあるが、青果物や日本食も含むアジア食材など、素材から惣菜まで、アジア圏の人が米国在住でもなにも困らないだろうなあという品揃え。

前回視察時2016年には、この地区には店はなかったが、小さい店ながらもコリアン、チャイニーズらしき客がひっきりなしにやってくる。英国のスーパーでは手に入らない調味料やカップ麺を大量に購入している。日本の食材も多く、チルドケースで豆腐も販売している。ロンドンでは、市の南東部 Malden という地区に大型店舗がある。Angel 地区のこの店と他にもロンドン市内のコンビニ程度の小さな店は OSEYO という店名で、店頭に Hmart Family と書かれている。

(Mitcham 地区) <https://en.wikipedia.org/wiki/Mitcham>

ロンドン中心地区より 7.2 マイル、テムズ川をわたり南東方面。戸建ての住宅が並ぶ町。白人率高い地区であるが、視察したスーパーマーケット近辺は、ムスリムの教会が 2 つあり、アジア食品店も多い地域であった。ディスカウンター業態の Lidl と ASDA が 100 メートルも離れておらず、価格を見比べて買い周りをする顧客を見かける。



地下鉄の便はなく、バスが便利。北西部には、ウィンブルドンの高級住宅地。その南には、Priority Retail Park という、Sainsbury、Aldi が入っている大きなモールがある。さらにその北のウィンブルドン駅には、駅ナカに M&S があり、周辺に Sainsbury、Waitrose、Morissons などが集まっている。さらに地下鉄で 2 駅北上すれば Summer Field 駅で、徒歩 2 分のところに COOK がある。短時間で視察するなら、おすすめの地域。

1. Morrisons

ビッグ4の座を、2022年にAldiに譲ってしまったMorrisonsは、1899年に玉子とバターを扱う店としてスタートし、イングランド北部地域に展開していた。2004年に米国から進出していたSAFWAYが撤退するにあたり店舗を引き受け、南部やスコットランドなどにも店舗を広げることになった。2016年アマゾンと提携しECにもいち早く乗り2021年、米系のファンドに傘下に入り、54年間ロンドン株式市場に上場していた歴史に幕を閉じた。現在、店舗数は497店舗、売上規模は176億£、税引前利益4億3,100万£と前年より売上・利益とも伸びているが、このMitcham店、またWimbledon駅前のモール内の店も、いまひとつ活気がない状況であった。英国の伝統的・良きスーパーというイメージとは異なっていた。

2. Lidl

ドイツ発のディスカウンター、Aldiとともに絶好調といった感じのLidl、店内のケースも清潔かつ美しく、畜産品や農産品など英国産を訴求しており、ボックスストアのマイナスイメージはもはや払拭された感じの店。とはいえ、あの雑貨の売り場も健在である。チルドレディミールも品揃えが多いが、個包装された精肉パック、冷凍食品など、すっきり絞られた品揃え、もはや、昔のディスカウンターの悪いイメージは払拭されている。

1994年に英国に進出したLidlは、英国内に935店、13の物流センターを持ち、このインフレ下、専門誌“Grocers”が選ぶ“Super Grocer 33”において、最も低価格のチェーンに3回連続で首位になり、売上も好調（Bloomberg記事によると13.9%の伸び）で、2022年2月時点で、COOPを抜いて、食品小売業の6位のポジションに上ってきた。また、業界においても先んじて従業員の時給を上げるなど、成長戦略を打ち出している。

3. ASDA

1958年に創業。創業者兄弟が、米国で視察したPiggy Willyにヒントを得て、セルフサービスを導入、また大量仕入れにより低価格を実現することにより、英国初のディスカウンターとして発展してきており、現在では、衣料品などもあつかうGMS業態が主流である。また、1998年からオンライン販売もスタートさせ、1999年には、Walmartの傘下となった。2020年に欧州でコンビニやガソリンスタンド、ファストフード業態を運営するEGグループの傘下となる。Walmartは、一部株式を保有し、役員を派遣するなど株主としても連携し商品の提供も継続している。スーパーセンター、スーパーストアなど大型店なども含め633店を運営。（2021年12月）店内の雰囲気は、以前よりスッキリしており、店内に客用のトイレもあり清潔に使われていた。

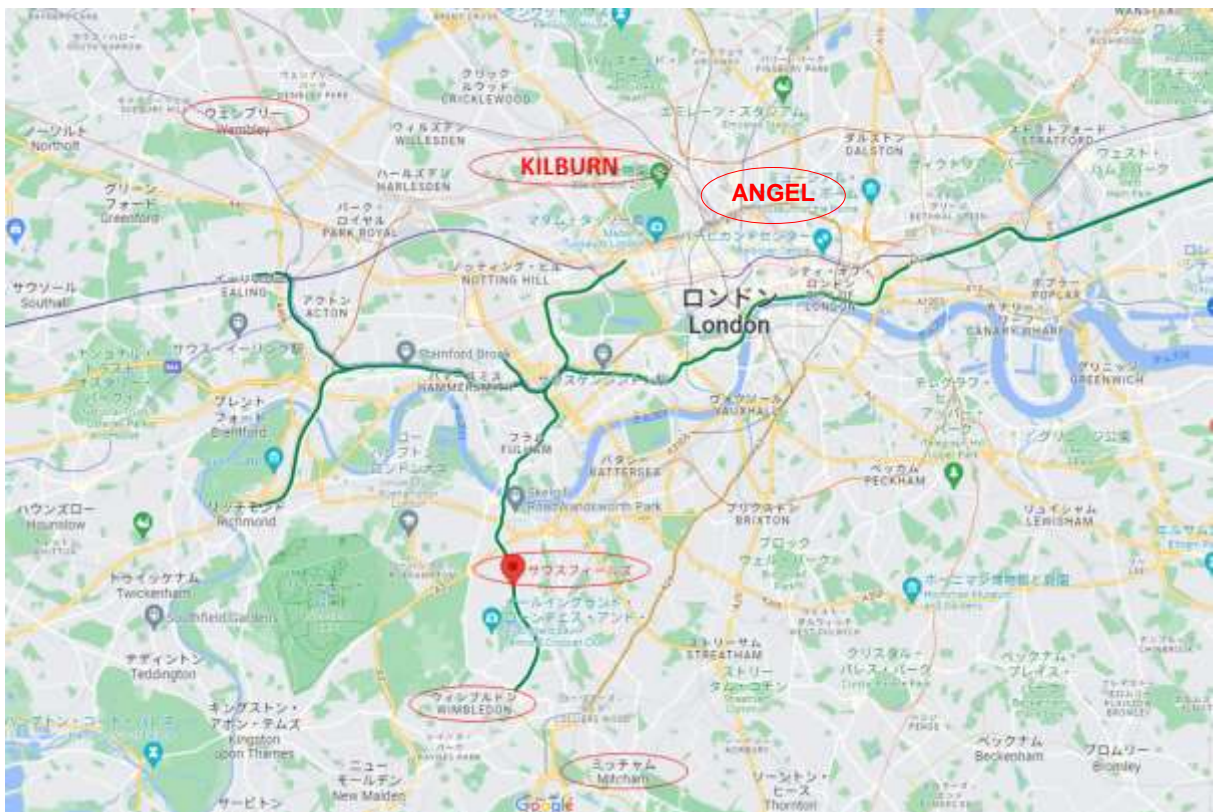
4. FarmFoods

1960年頃、スコットランド系のファミリーが始めた冷凍食品中心のスーパーマーケット、現在は300店以上を展開している。ICELAND同様、冷凍食品の利点を、調理の手間を省くことができ、ロス（廃棄）も少ないと謳っており、同社ウェブサイトによると、平均的な英国人家庭が週に13ポンド相当の食品廃棄をしている。冷凍食品に変えたら、その5£となり、年間250£の節約となるなどと、冷凍食品の優位性を様々な側面から説いている。

5. ICELAND 先述の通り。

(その他エリア、サマーフィールド、ウェンブリー、キルバーン)

サウスケンジントンあたりに滞在したので、ロンドン西部の方を回った。ケンジントン地区には、Whole Foods MarketやWaitroseの大型店あり、TESCOエクスペレスやCOOPなど、コンビニ的な店もほとんどある。また、カフェや好感度の店が並ぶノッティンゲルにも近く、あちこち回るには便利。



1. COOK Summer Field 店

ロンドン市内では、他に Fulham、Clapham などに店舗がある。COOK は、冷凍食品の SPA 製造小売チェーン、1997 年創業で「工場ではなくキッチン、加工ではなく調理」と家庭調理の延長上にある冷凍食品と位置づけている。現在、90 以上の直営店とフランチャイズ店に加え、オンラインでの販売を行っている。2016 年秋に本社兼工場を訪問したときは、直営店 46、FC37 と聞いたので成長著しい。その際、冷凍にする理由として、①保存料などの添加物を必要としない、②買い置きができるので、シーズン・イベント前にセールをして売り切るなど聞いた。訪店したのはちょうどハロウィーン当日で、ハロウィーンシーズンの商品は 20%引きになっていた。明日からはクリスマス商品と、バックヤードにクリスマス商品がスタンバイされていた。社会や環境持続性に貢献する企業活動の B-Corp の一員でもある。

(Wembley 地区)

サッカースタジアムがあるウェンブリー地区は、再開発済み、住宅、オフィスビルや学校などがどんどん建築中である。駅直結のショッピングモールもあり、Amazon Fresh も開店している。ロンドン中心より少し離れるので、COSTCO、IKEA、TESCO、マクドナルドの大型店が集まる。

1. Costco

2022 年は、スウェーデンに新主したことで世界 14 カ国、842 店舗を展開する会員制倉庫型ホールセラーの Costco は、英国では 29 店を展開している。米国でも日本でも、卸売サイズの商品を大きなカートに買い物する姿を見ているだけで楽しい業態。ところが、水とトイレトペーパーのマストアイテムだけをカートに入れると、その他じっくり品定めしている顧客が多かった。日曜日にもかかわらず、それほど混んでおらず、インフレがかなり大きく影響しているのだと感じた。

2. IKEA

62 カ国、460 店を展開する IKEA、英国では 19 店舗展開。家具や雑貨など世界共通の品揃えに商品配置で、一方通行の導線で客を回遊させつ、近年カフェテリアを併設し、外食事業も若い世代に人気を得ている。レストラン事業では、2025 年までには、提供する素材の 50%以上をプラントベースにするとも計画している。同店は、大型の Warehouse (倉庫) 併設で、カフェテリアは、300 席ほどもありそうなスペースに、家族連れで満席。インフレ下、安価な休日（日曜日）の過ごし方かなと観察。

3. TESCO Extra

GMS 業態、ガソリンスタンド、ドラッグストアなども含む大型店。売上 578 億£、税引前利益 20 億 3,300 万£。店舗数は、大型店 31,402 店、コンビニ (TESCO express) 5287 店、DOTCOM716 店で系 37,405 店舗を運営し、圧倒的な店舗数で、食品小売市場のシェア 27%を占める。

(KILBURN 地区) の Aldi Fresh

郊外でなく、中心部の Aldi を視察。雑貨のスペースはなく、食品だけ、Aldi fresh という業態名。青果はじめ生鮮物が効率よく並び、訪れた時間は日曜の閉店間際で、レジは長蛇の列。客は、商品をかご満載にして買いものしているところを見ると、ロンドンでの Aldi 人気うかがえる。

アイルランドと英国合わせて、1,106 店を展開し、ロンドン内では、駐車場を併設しない小型店も運営。2022 年は、18%の成長率で、食品小売市場 9.3%のシェア。136 億 6,500 万£、税引前利益 3 億 5,700 万£ (アイルランド Aldi も合算)。当然オンライン販売も始めており、毎週木曜日と日曜日に投入されるお買い得品は、オンラインでは 1 週間前に購入することができるなど、EC 上においても優位性をウェブサイトトップページでアピールしている。

EU 内に直営、FC ふくめ 40 の店を持つ。また、コンセッション出店や商品の卸販売を事業としている。創業以来、冷凍食品専門を貫いている。筆者の見る限りでは、2015 年以降、生鮮品やパン、飲料・アルコールも品揃えされ、ワンストップショッピングの利便性を高めている。1 ポンドのレディミールから、素材、ポテト、バター付きの魚やフライドフィッシュなど、アイスクリームを含め、冷凍ショーケースの 2 列が、4 ライン並ぶ。(2016 年視察時よりも 1 ライン増えている。)

冷凍食品の利点として、準備簡単、ロスもない、どこでも店があれば買えると、さらに 25£以下ラスチック削減など環境持続性への貢献もアピールしている。

参考サイト

Sainsbury <https://www.sainsburys.co.uk/>

「Annual Report and Financial Statements 2022」 参考

Marks& Spencer <https://corporate.marksandspencer.com/>

「Annual Report 2022 “Shaping the FUTURE”」 参考

Amazon UK <https://www.amazon.co.uk/b?node=27913496031>

Insider Intelligence 2022.8.22 “Amazon halts its UK grocery store ...”

<https://www.insiderintelligence.com/content/amazon-halts-its-uk-grocery-store-expansion-sales-disappoint>

Waitrose <https://www.waitrose.com/>

John Lewis Partners <https://www.johnlewispartnership.co.uk/>

John Lewis Partnership plc - 2021/22 Annual Report and Accounts

Hmart US <https://www.hmart.com/>

Morrisons Annual Report

<https://www.morrisons-corporate.com/Morrisons-plc/annual-report/>

<https://corporate.lidl.co.uk/media-centre/pressreleases/2022/grocer33>

<https://www.bloomberg.com/news/articles/2022-07-19/discount-supermarkets-boost-uk-sales-as-cost-of-living-bites?leadSource=uverify%20wall> 2022.7.19

<https://corporate.asda.com/our-story/our-history>

EG グループ <https://www.eg.group/>

<https://www.farmfoods.co.uk/frozen-food.php>

<https://www.cookfood.net/info/About-cook/>

<https://www.costco.co.uk/>

<https://about.ikea.com/en/about-us>

<https://www.tescopl.com/investors/reports-results-and-presentations/annual-report-2022/>

<https://www.tescopl.com/media/759057/tesco-annual-report-2022.pdf>